

稲荷ノ社傍ニ古桜樹一株大サ三囲許リ倉科治部ノ少輔信広之ニ居ルト云ヒ伝フ」また倉科治部少輔信広については、「武田安芸守信満ノ庶子ナリ子孫ノ系譜ヲ詳ニセズ本村ノ慶徳寺ニ蔵品七郎左衛門夫婦ノ牌子アリ年月ヲ亡セリト雖モ夢窓国師云々ノ事アレハ観応ノ前ニアリ信広ヨリ六七拾年モ以前ノ人ト見エタリ牌面モ疑ナキニアラス按スルニ駿州大宮神奉納記ニ倉科入道アリ信広ノ後ナリヤ否大村家記ニ云倉科左衛門信棟ハ（法名淳心院故棟禪定門）入道願正ト云者ノ子ナリ琵琶城ニ居レリト亦異同ヲ知ラズ」とある。



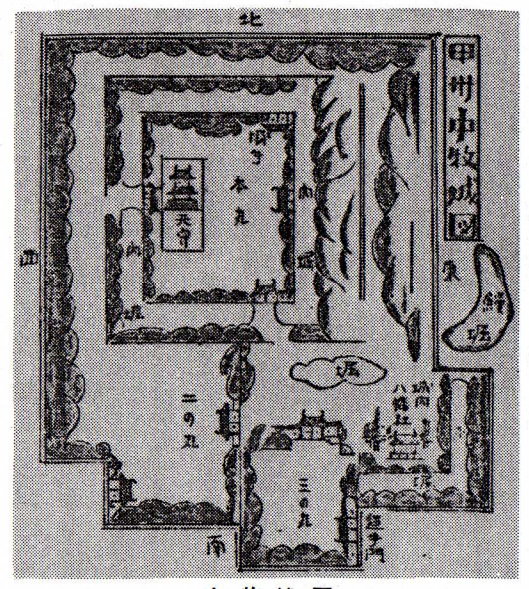
中牧城跡

倉科信広は武田家十三世の主、武田安芸守信満の庶子といわれる。信満は上杉禪秀の乱により、応永二十四年（一四一七）天目山木賊の地で自害している。琵琶城は現在城跡一帯民有地で果樹園、桑園等になっており、鎮守稲荷の石祠を残すのみで、桜の古株などその根跡は留めていない。耕地の区割をこの土地の人は四ッ割、八ッ割と称し、当時の武家屋敷をしのぶほか、井戸川から引かれている上げ堰の水路を御城堰と呼ぶ。城跡の北方正斬沢小字六田を渠首として琵琶城内に用水とし取り入れた水路である。

中牧城跡

中牧城跡は大字城古寺地内にあり、別名を浄古寺城または東郡城という。城古寺は明治初期まで城古寺村と称し、現在の牧丘町内の大字では一番小さい大字である。

万力筋より川浦番所をすぎ、秩父大滝村栃本に通ずる街道を秩父街道という。また一方西保筋より甲府市古府中に通ずる街道を秩父裏街道という。城



中牧城図

なっている。中世の城跡琵琶城跡、小田野山城跡はこの地にある。

中牧城は東南は山と崖からなり、西北はやや平地が続く、中世の平山城形式からなる。中牧城の規模は、東西約三七七呎、南北約四三六呎で、城の大手は東南に面する下の手にある。大手門跡の南側は土塁が築かれていて、東西の延長三七七呎、高さ五・五呎で、さらに鉤形に北にのびてその延長三七七呎、この付近は竹藪となっている。

古寺はその要所にあたるところで、この地方では、城跡一帯を通称城山（しろやま）と呼んでいる。現在の塩山市とは南の鍛冶屋橋を境として替地、窪平の商店街があり、山梨市とは旧万力筋の八幡、岩手を経て本町の隼より諏訪橋を渡り替地に入る。牧丘町の幹線道路はこの地が起点である。

さらにこの地より三分して、東は三富村、西は中牧西保地区に至り、中央は北に向かって袖口に通ずる道路がある。中牧城跡はこれらの道路の分合、分岐点を眼下に見おろす高操たる丘地にある。

東南の麓に笛吹川が南流し、南麓は鼓川を隔てて向山に對している。東北には堀の内を経て崖下に琴川の流れがあり、自然の外堀となっている。西方一帯は平坦地が続くその先は小楡山麓より傾斜地帯で大字倉科、西保下の高地と